

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	高 帥
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 中国における日本語学習者の研究論文の評価に関する研究 —Analytic scoring評価に基づいて—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	佐藤 利行	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	高永 茂	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	今林 修	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	迫田 久美子 (本学名誉教授)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、中国語を母語とする日本語学習者の研究論文に対する従来の評価基準を再検討し、より信頼性、妥当性が高く、評価者間の評価の一致性が認められる新たな評価基準を作成し検証するものである。論文は第1章「序論」、第2章「先行研究と本研究の課題」、第3章「Holistic scoring 評価と Analytic scoring 評価の比較研究」、第4章「日本語学習者の研究論文の Analytic scoring 評価基準の開発」、第5章「新評価基準と現行論文評価基準の比較研究」、第6章「結論」の全六章から構成されている。</p> <p>第1章では、研究の背景と目的を論じ、本研究が中国における日本語教育に与える影響について述べる。</p> <p>第2章では、先行研究を丁寧に分析し、中国と日本とにおけるライティング評価について、その問題点と課題、具体的な評価基準が示されていないこと、日本語で書かれた研究論文に特化した評価がなされていないこと、評価者間の評価一致度に関する言及がないこと等について整理し、本研究の意義についてまとめている。</p> <p>第3章では、Holistic scoring 評価 (HS 評価) と Analytic scoring 評価 (AS 評価) を取り上げ、その信頼性と評価者間における評価一致度について、調査結果を踏まえた検討を行っている。HS 評価とは作文の全体的印象を基に単一の得点で作文を評価するものであり、AS 評価とは作文を複数の観点から採点し、その総合点を評価するものである。中国人日本語教師が日本語論文を二つの評価法によって評価した結果、AS 評価には一貫性が認められ、その信頼性が高いこと、さらに AS 評価は評価者間の評価一致度が高いことを検証している。</p> <p>第4章では、中国教育部が定める「普通高等学校本科專業類教学質量国家基準」(新国評) と「普通高等学校本科外国語語文学類專業教学指南」(指南) に提示される人材育成に求められる能力を参考に、AS 評価の構成概念に基づく新たな評価基準についての検証を行っている。より信頼性の高い「新評価基準」作成のために中国人日本語教師にアンケート調査を実施し、各評価小項目の必要度を5段階で評価し、その結果を用いてクロンバックのα係数を計算して「新評価基準」の評価項目の信頼性の高いことを明らかにしている。また、探索的因子分析による修正を加え、独自の「日本語研究論文評価基準」を作成し、これは「新国評」「指南」にも適応する妥当性の高い評価基準であることを検証している。</p> <p>第5章では、前章で提示した「新評価基準」と中国の大学で採用されている「現行論文評価基準」とを比較検討する。すなわち中国人日本語教師が評価対象となる研究論文をそれぞれの基準に</p>			

よって評価し、その結果により両者の評価項目全体のクロンバックの α 係数とケンドールの一致係数を計算し、「新評価基準」の信頼性と評価者間の評価一致度の高さを検証する。

第6章では、本研究の成果をまとめ、今後の課題について述べる。

以上、本論文は、中国の大学における日本語教育の質の向上を目指すことを目的として、中国語を母語とする日本語学習者の研究論文に対する新たな評価基準を提示し、信頼性と妥当性を基盤とする有効性を複数のアンケート調査を実施して検証したものである。対象とする研究論文の定義、いわゆる作文・ライティングとの差異をどう扱うのか、評価者の能力についての検証など、更に解明しなくてはならない課題も有るが、中国のみならず海外の高等教育機関における日本語教育の進展に大いに役立つ内容であり、今後の研究の進展が期待される論文である。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)